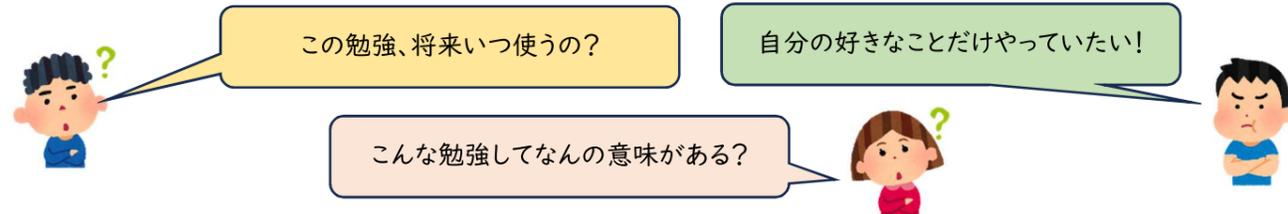


1. なぜ、探究的な学習が必要なのか

子どもたちから、こんな言葉が聞こえてきたことはありませんか。



これらの問いに対する解答は、知識伝達を主とした普通の授業だけでは、答えることは難しいです。また、普段みなさんが生活して、何か困ったことや課題にぶつかったときに、「これは理科で習った〇〇を使って、社会で見た△△を使って、数学の知識の□□が使えるから…」と考えながら、課題に向き合うことはほとんどなく、これまで習得してきた知識や経験を総合的に織り交ぜ、解決していくはずですが。しかし、その力は今の教科指導の授業や〇〇学習といった単発的な授業だけでは、身に付けることはできません。

各教科で習得した知識や技能を、総合的に活かせる場面設定が必要です。

2. 今求められる泉南中学校の生徒の実態に合った探究的な学習

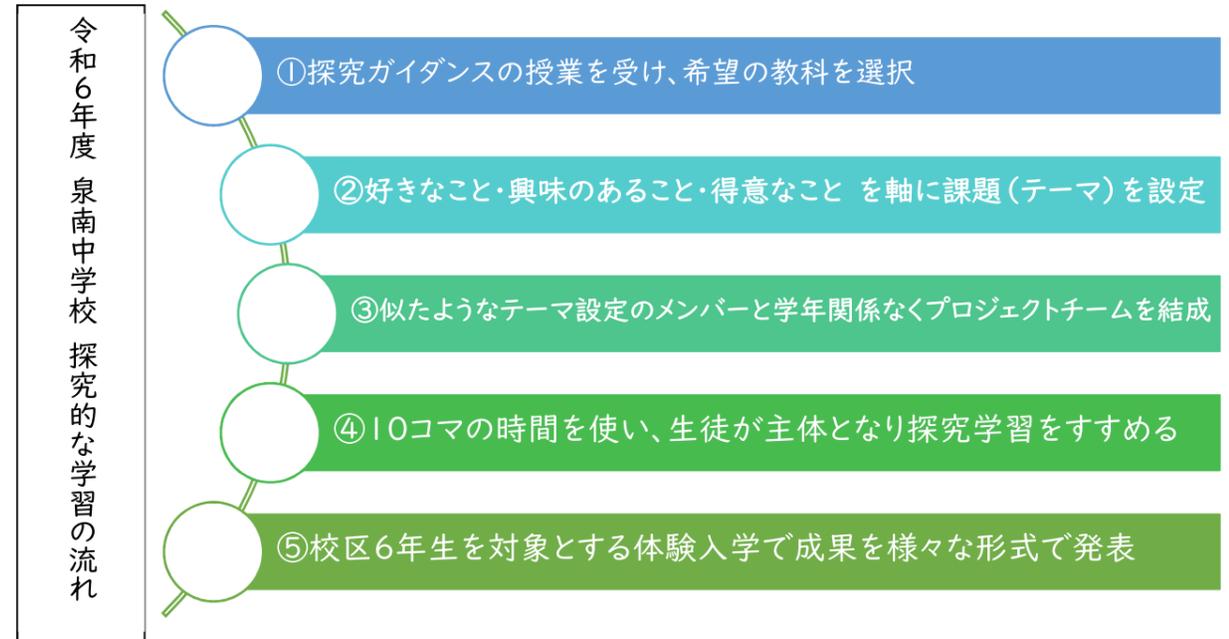
学習指導要領では「総合的な学習の時間の目標は、『探究的な見方・考え方』を働かせ、総合的・横断的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成することを目指す」と記されています。「総合」の授業では各教科で学習した内容を扱うことによって、キャリア教育の視点を経た子どもたちの生き方の学習へとつなげていく必要であると考えています。しかしその一方で泉南中学校の学校生活アンケートの項目を見てみると、以下の3つの項目の数値が大阪府平均的な数値と比較すると、低い傾向にあります

- ①「地域や社会をよくするために、何をすべきか考えることはありますか」 ⇒ はい 55.4%
- ②「進級・進路について仲間や教員と話し、自分の進む先を考えることができましたか」 ⇒ はい 61.3%
- ③「将来の夢や目標を持っていますか」 ⇒ はい 63.8%

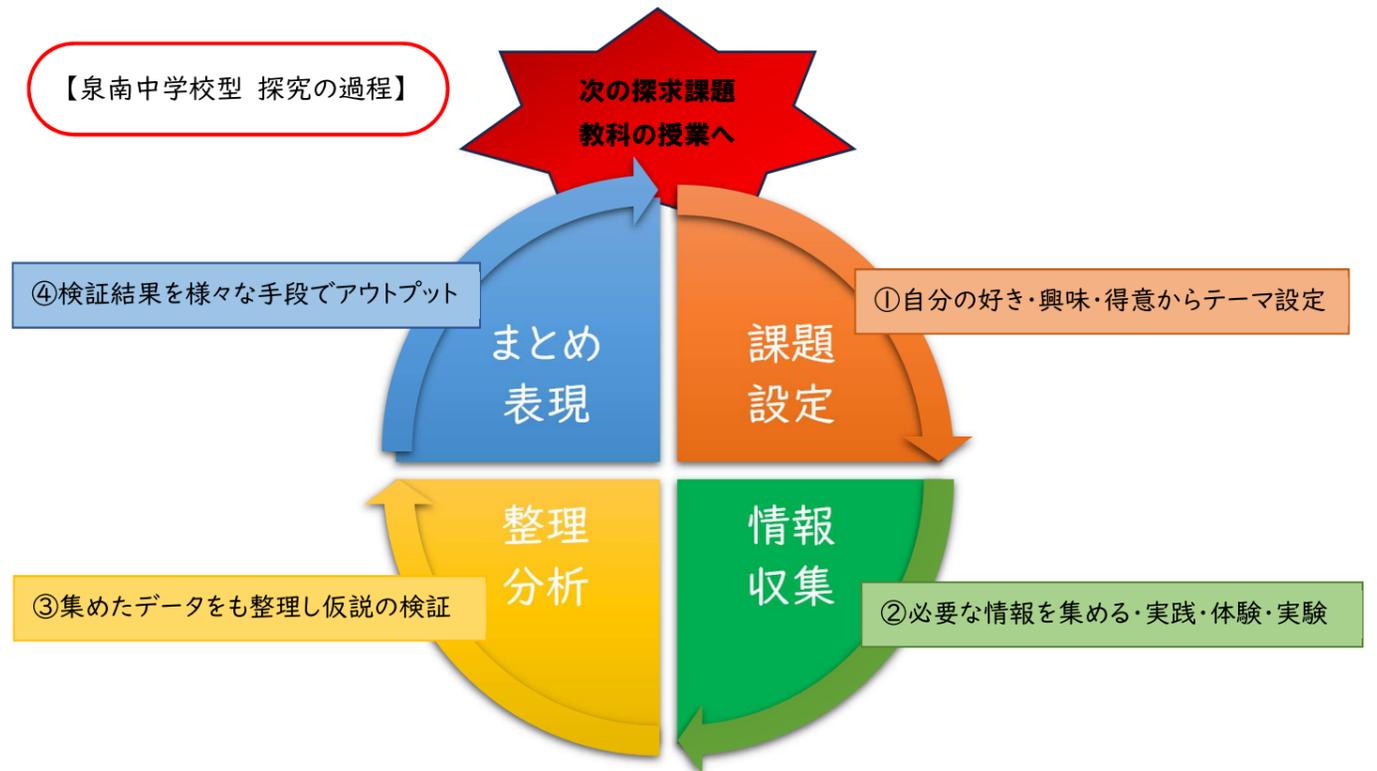
これらのキャリア教育で育みたい生徒の姿に直結する項目の数値向上につなげ、泉南中学校の教科センター方式の校舎を有効に活用するためにも、課題解決型の探究的な学びを通し、学校教育目標である「ともに学び、自分らしく生きる」を達成できる生徒を育むことを目指していくことが必要であると考えています。



3. 令和6年度の探究的な学習の流れ



4. 探究的な学習の過程（学習のサイクル）



5. 今後の展望

令和6年度の探究的な学習では、教科の学習を軸としているため、校内での活動にとどまっています。今後は少しずつ生徒の視野や活動の範囲を拡げ、泉南市内の地域の企業や人材とのつながりの場を積極的に設け、個人の課題から学校の課題、地域の課題の解決へと導くことができるような学習活動へと発展させていく予定です。